

基本方針 2

子どものスポーツ 機会の充実



現状と課題

○子どもの体力について

全国体力調査を種目別にみると、本県の児童生徒は、持久力や投能力は全国平均より優れていますが、柔軟性等に課題が見られる傾向が近年続いています。また、運動習慣については、全国と同様、運動に親しむ子どもとそうでない子どもの二極化の傾向が見られます。

その原因として、少子化により一緒に体を動かす仲間の減少や、手軽に遊べる空間の減少、テレビ、ゲーム機、スマートフォン等による映像視聴時間が増加するなど、様々な要因が絡み合い、結果として子どもが日常的に体を動かす機会が減少していると考えられます。

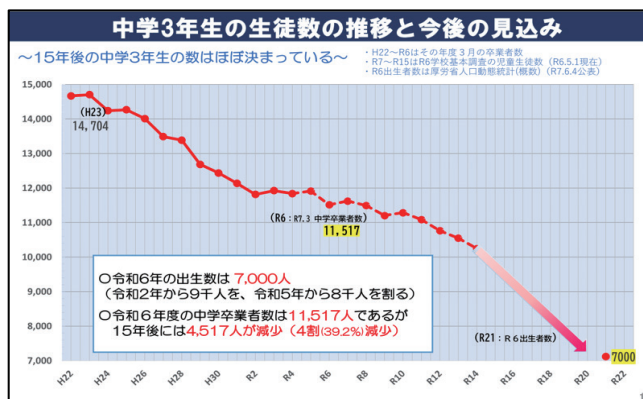
このため、児童生徒が日常から「体を動かすことが楽しい」「もっと運動をしたい」と感じることができるような体育学習の展開や、学校・家庭・地域において、運動習慣の形成や体力向上のための取組を行っていくことが求められます。

○子どものスポーツ環境について

これまで、我が国のスポーツ振興の一端を担っていた学校部活動は、急激に少子化が進む中、部活動数や部員数の減少等により、学校単位での活動が困難な状況となっています。

このため、将来にわたって子どもたちが継続的にスポーツに親しむことができる機会を確保・充実する必要があります。

このため、各地域においては、学校を含めた地域全体が連携し、「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、それぞれの実情等にに応じた持続可能で多様なスポーツ環境の整備・充実に取り組むことが求められています。





写真提供／長崎市小学校体育大会実行委員会

■全国体力調査 全国平均と長崎県平均の比較

(令和6年度スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」)

種目	小学校5年生						中学校2年生					
	男子(平均値)			女子(平均値)			男子(平均値)			女子(平均値)		
		長崎県	全国		長崎県	全国		長崎県	全国		長崎県	全国
①握力(kg)	↓	15.74	16.01	↓	15.65	15.77	↑	28.99	28.95	↑	23.05	23.18
②上体起こし(回)	↓	18.44	19.19	↓	17.58	18.16	↑	25.83	25.94	↑	21.64	21.56
③長座体前屈(cm)	↓	31.75	33.79	↓	36.21	38.19	↓	43.13	44.47	↓	43.63	46.47
④反復横とび(回)	↓	38.87	40.66	↓	37.48	38.70	↑	51.39	51.51	↑	46.14	45.65
⑤持久走(秒)							↑	397.72	410.69	↑	297.04	309.02
⑥シャトルラン(回)	↑	47.12	46.90	↑	37.80	36.59	↑	86.16	78.98	↑	56.74	50.67
⑦50m走(秒)	↑	9.48	9.50	↑	9.72	9.77	↓	8.07	7.99	↓	9.01	8.96
⑧立ち幅とび(cm)	↓	149.39	150.42	↓	142.39	143.13	↑	197.44	197.18	↑	168.48	166.32
⑧ボール投げ(m)	↑	21.62	20.75	↑	13.77	13.15	↑	20.54	20.57	↑	12.67	12.40
合計点(点)	↓	51.47	52.53	↓	53.24	53.92	↓	41.43	41.86	↑	47.60	47.37

「↑」……全国平均より優れているまたは同レベル 「↓」……全国平均より劣っている

■1週間の総運動時間 ※体育の授業を除く

(令和6年度スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」)

小学校	男子	0分	1~59分	60~419分	420分~
	全国	4.8%	4.4%	40.3%	50.5%
	長崎県	5.0%	4.1%	36.9%	54.1%
	女子	0分	1~59分	60~419分	420分~
	全国	7.0%	9.0%	55.4%	28.5%
長崎県	7.0%	9.2%	51.1%	32.6%	

中学校	男子	0分	1~59分	60~419分	420分~
	全国	7.5%	1.7%	13.2%	77.6%
	長崎県	6.6%	1.8%	11.1%	80.5%
	女子	0分	1~59分	60~419分	420分~
	全国	16.6%	4.8%	22.3%	56.3%
長崎県	15.3%	5.4%	19.4%	59.9%	

※WHOによると子どもは1日60分の中～高強度の運動を毎日行うことを推奨している。

子どもたちの「健やかな体」や「豊かなスポーツライフを継続する資質能力の育成」を目指し、体育学習の充実を柱に、学校と家庭や地域等が連携しながら、運動の習慣化や体力向上を図る取組を推進するとともに、子どもたちの多種多様なスポーツニーズに対応した、持続可能で望ましいスポーツ環境の整備等に取り組めます。

1. 幼児期における運動・スポーツ活動の推進

(1) 幼児期運動指針を活かした遊びの推奨

文部科学省が平成24年に策定した幼児期運動指針によると、幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切であるとされ、そのポイントとして「1 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れる」「2 楽しく体を動かす時間を確保する」「3 発達の特性に合った遊びを提供する」の3つが挙げられています。

幼児期運動指針を活かした遊びをテーマにした研修会の開催や身体を動かして遊ぶことの大切さについて幼児教育施設へ周知することにより、体力・運動能力の基礎を培い、丈夫で健康な体づくりを推進できるように努めます。

(2) 体力向上に関する指導者の指導力向上

幼児期は、遊びの中で身体をどのように動かすことができるのかを試行錯誤しながら動きを習得していく時期であり、身に付けた動きをベースに多様な動きが経験できるような遊びを取り入れることが重要です。

併せて、小学校低学年の体づくり運動との関連も意識できる研修会を開催し、保育者の指導力向上を図ります。



2. 「生きる力」の育成を図る体育学習の展開

(1) 学習指導の充実

体育科・保健体育科の授業が「楽しい」と感じている児童生徒は、運動やスポーツに対して好意的で、卒業後も運動に継続して取り組む意欲が高い傾向にあります。

このため、体育学習においては、達成経験を重ねることや仲間と関わりながら協働的に取り組むなど、児童生徒の充実感を高める授業を展開することにより、運動やスポーツに肯定的な態度を示す児童生徒を増やすよう努めます。

また、保健学習においては、心身の健康や安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成することができるよう努めます。

(2) 指導や評価方法の工夫・改善と指導者の指導力向上

体育科・保健体育科の授業作りについての研修会の開催や研究校等の指定、学校体育研究団体との連携などをとおして、学習指導要領の趣旨に沿った体育学習や評価の在り方を周知し、指導者の資質・能力の向上を図ります。



全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「体育の授業で運動のやり方やコツがわかった」児童生徒の割合

令和6年度
88.2%

令和12年度
90.0%

1週間の総運動時間が60分未満の割合
(小学5年生)

令和6年度
12.7%

令和12年度
10.0%以下

3. 児童生徒の体力向上

(1) 指導体制の確立

各学校における体力に関する課題の解決を図るため、『体力向上アクションプラン』の作成と実施を促し、「体育授業の充実」、「運動習慣・生活習慣の改善」等の視点からの指導体制の充実を図ります。

(2) 児童生徒及び保護者の体力向上にかかる啓発

地域の専門的指導者を体育授業に活用することで、児童生徒が「わかる・できる」を体感し、運動やスポーツの意義を感じることが出来る取組を推進します。

また、スポーツや運動遊びに関する専門的な指導技能を有した専門家を小学校に派遣し、家庭や地域で取り組むことができる簡単な運動や遊び等を紹介するなど、学校・家庭・地域の連携による子どもの望ましい運動習慣の確立や体力向上を図ります。

(3) 運動の場の工夫と時間の確保

『学校をプレイパークに!』を合言葉に、学校敷地内に、ボール投げの的やステップ用の輪を描くなど、子どもたちが休み時間や校内での移動時間等において思わず体を動かしたくなる場面の設定を進めます。

また、子どもたちが休み時間等に、仲間と長縄とびやストレッチ等の記録に挑戦しながら、運動する楽しさや達成感を味わうことができる「フィットネスランキングながさき」を実施します。



4. 学校を含めた地域における子どものスポーツ機会の充実

(1) 少子化における持続可能なスポーツ環境の整備

急激な少子化が進む中でも、将来にわたって子どもたちが継続的にスポーツに親しむ機会の確保・充実を図るため、「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、地域の実情に応じて、様々な関係者が連携・協働しながら一体となって、安心してスポーツ活動が続けられる環境の整備に努めます。

(2) 指導者の指導力向上

子どもたちが安心してスポーツ活動をするためには、専門性や資質・能力を有する指導者が必要不可欠です。そのため、スポーツ医・科学の知見に基づいた指導方法等に関する内容ははじめ、暴言・暴力、行き過ぎた指導、ハラスメント等の行為の防止などの多様な視点での研修会を開催し、指導者の資質・能力の向上に努めます。

5. 学校体育関係団体の活動支援

(1) 学校体育団体との連携

体育・スポーツの健全な普及発展と競技水準の向上を目指し、県中学校体育連盟や県高等学校体育連盟、県高等学校野球連盟とより一層の連携を図り、活動を支援していきます。



部活動の地域展開

これまで学校単位で部活動として行われてきた中学生年代のスポーツ活動は、今後、学校を含めた地域全体の関係者が連携して、地域クラブ活動への移行などにより、子どもたちのスポーツ活動の機会を保障していくようになります。これは、子どもたちのための大改革です。今は、部活動というこれまでの「当たり前」から抜け出し、地域が一体となって「スポーツ活動の新しい当たり前」を創っている最中です。

始まり

どうして始まったの??

➔ 少子化の深刻化

少子化が部活動に影響??

- ➔ ✓部活動設置数の減少
やりたい種目の部活動が学校にない!
- ✓1運動部あたりの人数の減少
特にチームスポーツなど部員数が足りない!
団体戦に出られない・練習試合ができない!

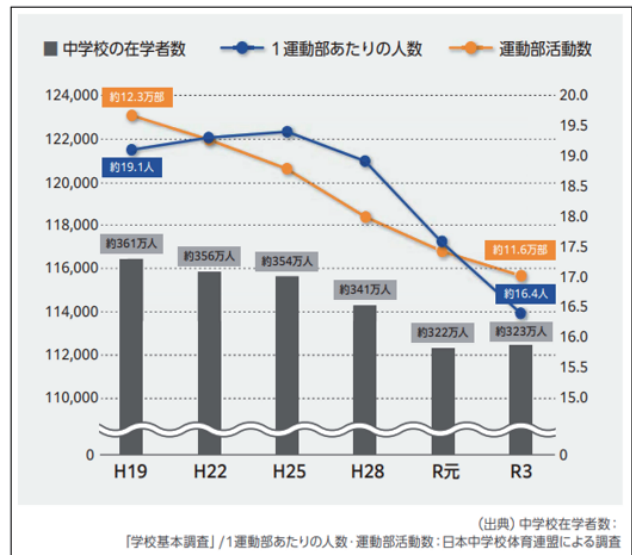
他に現状や課題は??

- ➔ ✓いろんなスポーツを体験してみたい!
- ✓専門的な指導が受けられない・・・

なぜにゃ?



【中学校在学者数・1運動部あたりの人数・運動部活動数】



目指す姿 **子どものスポーツ機会の確保と充実「地域の子どもは、地域で育てる！」**

- ✓地域で多様な活動を楽しめる環境
- ✓学校段階にとらわれない、引退のない継続的な活動
- ✓多様な世代との豊かな交流
- ✓専門性のある指導者からの適切な指導
- ✓学校を超えた仲間の獲得

地域の子どもは
地域で育てるにゃ!

にやるほど!

理念・方向性

- ✓急激な少子化が進む中でも、将来にわたって子どもたちがスポーツ活動に継続して親むことができる機会を確保・充実。
- ✓学校部活動の意義を継承・発展させつつ、地域クラブ活動としての新たな価値を創出。
- ✓地域の実情に応じた持続可能で多様なスポーツ環境を整備。

- ✓学校単位で部活動として行われてきたスポーツ活動を地域全体で関係者が連携して支え、子どもたちの豊かで幅広い活動機会を保障。
- ✓「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、地域の実情に応じたスポーツ活動の最適化を図り、体験格差を解消。

改革推進期間	改革実行期間		
	前期	中間評価	後期
令和5~7年度	令和8~10年度		令和11~13年度

部活動地域展開に関するスポーツ庁のページ

➔『部活動改革ポータルサイト』検索



取組紹介

全国的課題の最上位
・・・指導者の確保

指導者確保のために!!

令和6年4月22日(月) エントリー開始

NAGASAKI

地域スポーツクラブ活動・
学校運動部活動

指導者

エントリーシステム

指導の経験がある人に限らず、競技経験者や新たに指導を希望する人、アシスタントなどを募集。



登録・詳細

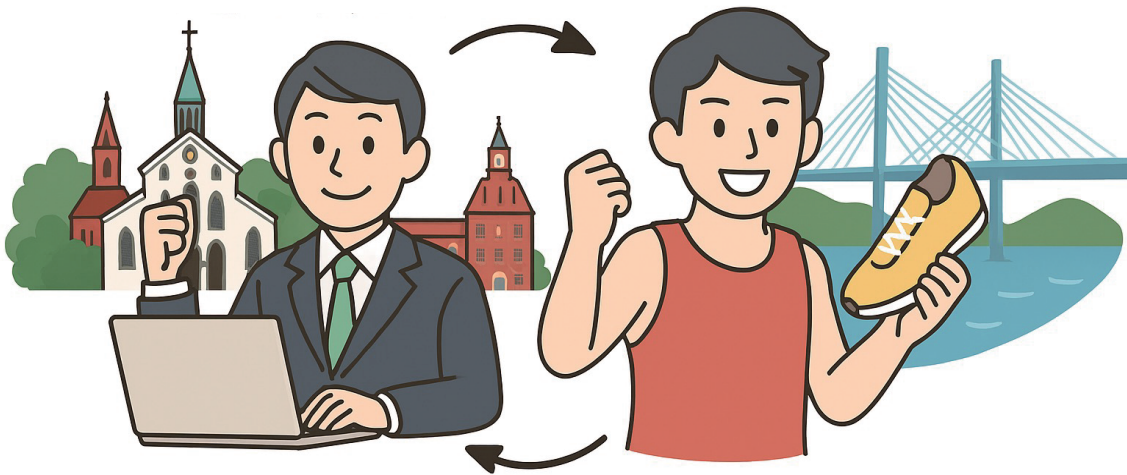
アスリートサポートセンター

令和6年度、県スポーツ協会内にアスリートサポートセンターが設置され、選手や指導者の皆さんが、働きながら安心して競技を継続できる環境づくりに取り組んでいます。

「アスリートサポートセンター」ってなに？

- 長崎で働きながらスポーツを通じて企業に貢献したい！
- 「ふるさと長崎」で競技活動を続けるアスリートを応援したい！

このような思いにこたえるための組織がアスリートサポートセンターです。
アスリートサポートセンターでは、アスリートの就職支援、社会人アスリートクラブの支援、企業と社会人クラブの関係構築、トップアドバイザーによるアドバイスなどを主な業務としています。



アスリートサポートセンターの組織体制



アスリートサポートセンターの主な取組内容

- 企業・商工会等の訪問による採用協力企業の開拓
- U・Iターン希望アスリートとの面談による就職支援
- 県内企業とアスリートの就職マッチング
- 合同企業説明会の開催
- 県内社会人クラブへの助成
- 企業からの社会人クラブ支援の募集
- トップアドバイザーによる相談受付



基本方針 3

競技スポーツの振興



現状と課題

長崎県には、地域に根ざしたプロスポーツチームとして「V・ファーレン長崎」と「長崎ヴェルカ」があります。両チームの活躍は、県民に感動と誇りを与えるとともに、スポーツを「観る・する・支える・知る・ふれ合う」機会の拡大につながっています。

こうした県民のスポーツへの関心の高まりは、本県の競技力向上に向けた取組を進めるうえでも大きな追い風となっており、この機運を活かして、ジュニア選手の育成、指導者の資質向上、社会人アスリートの支援体制の整備といった多面的な取組を、中・長期的かつ計画的に進めていくことが求められています。

その実現には、競技スポーツを支える関係機関・団体が連携し、世代を超えた「つながり」を意識した支援体制の構築が不可欠です。さらに、指導者の確保や資質向上、地域密着型クラブの活性化、スポーツ医・科学サポート体制の整備等を進め、選手が安心して競技に取り組める環境づくりを推進していく必要があります。

また、障害者スポーツの分野においても、全国大会や世界規模の大会で活躍する選手を輩出しており、引き続き、競技力向上に向けた環境づくりに取り組んでいく必要があります。





写真提供：長崎市小学校体育大会実行委員会

○国民スポーツ大会の成績（平成29年愛媛国体から令和7年滋賀国スポまで）

年度 開催地	H29 愛媛	H30 福井	R1 茨城	R2 コロナ	R3 コロナ	R4 栃木	R5 鹿児島	R6 佐賀	R7 滋賀
総合成績 (天皇杯順位)	24	41	26	開催 延期	開催 延期	45	39	40	30

○国民スポーツ大会における成年・少年別成績状況（掲載上記と同じ）

年度 開催地	H29 愛媛	H30 福井	R1 茨城	R2 コロナ	R3 コロナ	R4 栃木	R5 鹿児島	R6 佐賀	R7 滋賀
成年種別	222.0	155.5	177.5	開催 延期	開催 延期	152.5	160.5	230.5	190.0
少年種別	318.0	169.5	325.5			133.5	201.5	147.0	318.5
総合得点	940.0	725.0	903.0			676.0	752.0	767.5	898.5

※総合得点は参加点を含む

○全国障害者スポーツ大会の成績（平成29年愛媛障スポから令和7年滋賀障スポまで）

年度 開催地	H29 愛媛	H30 福井	R1 茨城	R2 コロナ	R3 コロナ	R4 栃木	R5 鹿児島	R6 佐賀	R7 滋賀
メダル数(個)	39	31	大会 中止	開催 延期	開催 延期	29	43	45	31
参加者数等	32	31				3	39	41	29
個人競技(人数)									
団体競技(チーム数)	4	3	3	4	2	0			

将来を見据えた選手の発掘・育成・強化を中・長期的視点に立って、計画的に進めるとともに、優秀選手の重点的な強化や、指導者の確保・資質向上に取り組みます。あわせて、スポーツ医・科学による支援体制の充実を図るとともに、競技スポーツを支える関係機関・団体との連携を強化し、「つながり」を重視した取組を推進することで、競技力の向上を図ります。

1. スポーツ界の好循環を生み出す選手・指導者の計画的な育成・強化

(1) 少子化における次世代アスリートの発掘・育成・強化

○ジュニア選手の発掘・育成・強化

本県ジュニア選手の育成・強化を図るため、小学生から高校生までのつながりのある指導体制をさらに充実させていきます。

また、中・長期的な視点で計画的に競技人口の裾野拡大を図るため、各競技団体と連携・協力し、競技未経験者を対象とした体験型事業やタレント発掘事業等に取り組みます。

さらに、運動能力や競技適性を評価し、潜在能力の高い選手を早期かつ計画的に育成・強化を図り、「世界の舞台で羽ばたく選手」の輩出を目指します。

○国民スポーツ大会少年種別の重点強化

本県ジュニア選手が九州大会や全国大会などで活躍できるよう、高校の部活動を核とした重点的な強化に取り組みます。

特に、国民スポーツ大会において、少年種別の主力となる高校の部活動を強化校として指定し、計画的かつ集中的な強化を図ります。

(2) 社会人アスリート等の確保とサポート体制の充実

○企業や競技団体と連携した社会人アスリート等の環境整備の推進

社会人アスリートや指導者が県内で安心して競技に取り組むことができる環境を整備するために、企業や競技団体等と連携し、社会人アスリート・大学生アスリートの就職を支援します。併せて、県内外で活動する社会人アスリート等に対して、このような就職支援の取組について広く周知を図ります。

○大学・クラブチームの強化・支援

国民スポーツ大会における成年種別の中心となる県内大学の選手やチームを強化指定し、競技力向上を推進します。

○「ふるさと選手」の参加促進

国民スポーツ大会での総合成績を向上させるため、他県在住でも本県代表として出場できる「ふるさと選手」制度を活用し、優秀なアスリートの確保に努めます。

また、「ふるさと選手」が、所属先からの理解を得て、国民スポーツ大会に出場できるように、所属先との緊密かつ良好な関係を構築します。

(3) 指導者の確保・育成

○指導者の育成と研修の充実

指導者の更なる資質向上を図るため、全国で活躍する優秀な指導者を招いた研修会や、若手指導者を強豪チーム等へ派遣する実践研修等を実施します。

○スポーツ医・科学に関する研修の充実

指導者が、インテリジェント・アスリートの育成や女性アスリートへのサポート等に取り組むことができるよう、各競技団体の意見を踏まえたスポーツ医・科学に関する研修会を実施します。

2. 競技団体の組織体制の充実と情報発信の強化

(1) 競技力向上を見据えた具体的な取組

○中・長期的な強化推進計画の作成

本県の競技力向上を目指し設置された「長崎県競技力向上対策本部」が策定した競技力向上推進計画（令和8～12年）をもとに、各競技団体が作成する個別の推進計画による主体的な取組を円滑に進めることができるように積極的に支援します。

(2) 広報活動を通じた競技スポーツの魅力発信

○メディアやSNS等を活用したPR活動の推進

競技スポーツの魅力と認知度を高めるために、地元メディアやSNS等を活用し、国民スポーツ大会をはじめ、各競技の大会の様子や活動等を積極的にPRします。

併せて、各競技団体が行う広報活動を支援します。



国民スポーツ大会での入賞数



本県ゆかりの日本代表選手数



3. 選手サポート体制の充実

(1) スポーツ医・科学の活用

○スポーツ選手体力総合診断の活用

選手の競技パフォーマンスを向上させるためには、発達段階や競技特性に応じた最新のスポーツ医・科学の知見に基づいた「科学的なトレーニング」と「バランスの取れた栄養、適切な休養等」が重要です。

県立総合体育館が実施する体力総合診断で得られた医・科学に関するデータ等を選手や指導者へフィードバックし、適切なアドバイスを行います。

○トレーナーによる選手・指導者等への医・科学サポートの充実

国民スポーツ大会において、選手が最高のパフォーマンスを発揮するためには、各選手の特性や状況等を把握したトレーナーが帯同し、選手・指導者等を総合的にサポートすることが重要です。

そのため、各競技団体と関係機関をつなぐ体制づくりを推進し、専属トレーナーの確保に努めます。さらに、トレーナーが国民スポーツ大会への帯同が可能となるように支援します。

(2) 競技スポーツ環境の充実

○競技スポーツを支える関係機関・団体が連携したスポーツイベント等の開催

競技力の向上には、地域等からの支援や応援が大きな力となります。

そのため、競技スポーツに対する理解を深めるとともに、地域の活性化につなげるために、競技団体、行政、スポーツ協会、企業、地域と連携・協力してスポーツイベント等の事業を展開します。



4. 障害者スポーツの競技力向上

(1) 指導者の派遣

○障害者スポーツ人材バンクの活用

障害者スポーツの指導者を登録した「障害者スポーツ人材バンク」等の活用により、指導者を学校、施設等へ派遣し、才能の発掘や競技力向上につながる助言等を行います。

(2) アスリートの活動支援

○アスリートへの助成

大会にて競技経験を積み、選手を育成するため、障害者スポーツを行う団体が開催する県内大会や九州ブロック大会への助成を行います。また、県内から多くのパラリンピック・デフリンピック等の世界規模の大会への出場選手を輩出できるよう、出場が期待される選手に対し助成を行います。

○強化練習会の開催

全国障害者スポーツ大会へ出場する選手が持つ力を発揮し、大会で更に活躍できるよう、強化練習会を開催し競技力の向上を図ります。

(3) 関係機関の連携強化

長崎県障害者スポーツ協会と競技団体、アスリート所属団体等の関係機関との連携を強化し、選手へのサポートをより効果的に行うことで、アスリートの競技力向上を図ります。

